

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	①正殿等の早期復元と復元過程の公開
			施策の小項目名	○復元・修復に携わる人材の確保・育成及び県産資材の利活用
主な取組	首里城赤瓦についての調査研究		対応する成果指標	沖縄県国営沖縄記念公園（首里城地区）の供用面積
施策の方向	・国及び首里城復元に関する技術者・関係機関との連携の下、復元・修復に携わる人材の確保と育成を推進するとともに、復元に必要とされる木材や赤瓦等の県産資材の調査・研究を進めるなど、県産資材の利活用に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施 主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
首里城復元に必要とされる赤瓦等の県産資材の調査研究および技術支援を進め、県産資材の利活用に取り組む。	県	首里城赤瓦の調査研究及び技術支援		
		支援件数（累計）		
		5件	3件（8件）	3件（11件）
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【 098-866-2337 】	関連URL —

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	工業研究費（単独）			予算事業名		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額			
県単等	直接実施	2,964	3,649			
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
依頼試験により、首里城瓦を品質評価した。また、「首里城 磚瓦に関する研究」を実施した。						

活動指標名	支援件数（累計）		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	7件	11件	13件	3 件（11件）	100.0%	順調	首里城瓦の試作時の立会、首里城瓦製造時の各 工程の立ち会い等を13回実施、助言した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

首里城瓦を製造する赤瓦事業協同組合と密接に連携を取りながら、製造時における品質管理を十分に図ることができた。支援件数の目標3件に対し、実績が13件となったことから、進捗状況は「順調」と判定した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
事業を担当する者を複数配置し、技術継承を図る組織体制にする。	増員配置が行われなかったため複数人での完全な対応は難しかったが、班長と副担当者がサポートをし、首里城瓦の製造時における品質管理を十分に図るとともに、技術継承にも積極的に取り組むことができた。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	事業は順調に進み、首里城瓦の研究開発と製造における品質管理を徹底できた。同様の研究開発および品質管理が首里城磚瓦にも求められている。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑧ その他	本事業の成果を首里城磚瓦へ応用する。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	④首里城に関連する伝統技術の活用と継承
			施策の小項目名	〇漆芸や木工等の技術者育成
主な取組	伝統工芸技術者（漆芸・木工）の育成		対応する成果指標	工芸技術研修（漆芸・木工）累計修了者数
施策の方向	・国との連携の下、県内の漆芸や木工等の技術者を活用した首里城の復元工事を進めるとともに、復元後の維持管理・修繕にも活用されるよう技術者の育成に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
伝統技術の活用と承継を図るため、漆芸・木工の工芸技術者に対して技術研修を実施した。	県	工芸振興センターにおける基礎的・専門的な技術研修		
		工芸技術研修(漆芸・木工)実施回数(累計)		
		漆芸1回、木工1回	漆芸1回、木工1回(漆芸2回、木工2回)	漆芸1回、木工1回(漆芸3回、木工3回)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【 098-866-2337 】	関連URL http://www.oki-kougeicenter.info

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況						(単位：千円)			
予算事業名		高度工芸技術者養成事業				予算事業名		高度工芸技術者養成事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額			R7年度			
				主な財源		実施方法	当初予算額		
県単等	委託	26,691	30,012			県単等	委託	30,324	
令和6年度活動内容						令和7年度活動計画			
令和6年4月からの1年を通して、漆芸4名、木工4名の計8名に研修を実施した。						令和7年4月からの1年を通して、漆芸4名、木工4名の計8名に研修を実施する。			

活動指標名	工芸技術研修（漆芸・木工）実施回数（累計）		R6年度			進捗状況	活動概要 おきなわ工芸の杜の貸し工房や共同工房を活用して、漆芸、木工の人材育成研修を行う。
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	漆芸1回	漆芸1回	漆芸1回	漆芸 1 回	100.0%		
活動指標名	工芸技術研修（漆芸・木工）実施回数（累計）		R6年度			順調	
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	木工1回	木工1回	木工1回	木工 1 回	100.0%		

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

漆芸4名、木工4名の計8名に研修を実施し、8名全員が修了した。目標値を達成できたため「順調」と判定した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
○首里城施工技術者と首里城壁面を想定したカリキュラムの具体的な内容や進め方について調整をした。	カリキュラムで実施する課題作品の仕様や実施時間を委託先と協議の上で進めた。 具体的には、使用する材料の配分や工程の省略化や効率化などのほか、ほかの政策課題との時間配分について決定した。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他（改善余地の検証等）	工程上密な内容となり時間を要したことから、効率的な方法で見直す必要がある。	② 連携の強化・改善	委託先と内容と進め方をブラッシュアップし見直しを行う。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	⑤首里城を中心とした琉球文化のルネサンス
			施策の小項目名	〇文化資源を活用した新たなビジネスモデルの創出等
主な取組	おきなわ工芸の杜の活用		対応する成果指標	伝統工芸・芸能を体験した個人旅行者の割合
施策の方向	・異分野・異業種間の連携する仕組みを構築し、多様性・独自性を持つ本県の文化資源を活用した新たなビジネスモデルの創出やおきなわ工芸の杜を活用した商品開発、マーケティング、ブランド力向上等を推進し、沖縄の伝統工芸の魅力や価値向上に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
おきなわ工芸の杜を活用し、消費者と作り手との交流を広げ、伝統工芸の啓発普及と消費拡大を促進するため、貸し工房、共同工房、展示室、セミナー開催等、利活用の推進を図る。	県,指定管理者	おきなわ工芸の杜における貸し工房、共同工房、展示室、セミナー等の活用		
		施設の総利用者数(累計)		
		36,000人	36,000人(72,000人)	36,000人(108,000人)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【 098-866-2337 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		おきなわ工芸の杜指定管理費			予算事業名		おきなわ工芸の杜指定管理費	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額		R7年度 <td rowspan="2"></td>			
						主な財源	実施方法	
県単等	委託	74,873	69,257		県単等	委託	66,959	
令和6年度活動内容					令和7年度活動計画			
セミナー等にて入居者の工房運営や販路開拓などの支援をした。また、施設の展示管理を行うとともに、沖縄空手会館等と連携した取組を実施した。					伝統工芸品の展示やHPおよびSNS等での情報発信、セミナーやワークショップの実施のほか、施設入居者の段階に応じた事業支援等を行う。			

活動指標名	施設の総利用者数（累計）		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		施設入居者向けの支援として、ハンズオン支援や専門家を招いたセミナーを3回実施。豊見城城址公園エリア一帯での周知・魅力発信の機会として、沖縄空手会館と共同イベントを開催。
	33,296人	65,671人	97,419人	36,000人 (108,000人)	100.0%	順調	

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
「施設の総利用者数」の目標値「36,000人」に対し「97,419人」と目標値を達成し、達成割合が100%であることから順調と判断した。各種イベントの実施やセミナー、ワークショップを開催することで施設の認知度を高め、R5年度よりも多く来館者の集客を図ることができた。	

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○SNSにおけるイベント情報の投稿をはじめとした情報発信に加え、近隣施設の空手会館や小学校等と連携を図り、広報を強化する。	○「工芸ものづくり＆空手体験2024」を沖縄空手会館と共同開催。各施設の特徴を活かしたイベントを実施することで、豊見城城址公園エリア一帯の周知・魅力発信の機会とした。 ○県内外の小・中学校、高等学校、大学等の施設見学を受け入れ、指定管理者にて施設ガイドを行った。また、県内中学校の職場体験受け入れや、工芸振興センターと連携して小学校の出前授業を実施した。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他（改善余地の検証等）	当該施設の認知向上のため、HPおよびSNSにて施設のイベント情報などの周知に加え、施設の取組や実施事業についても広報を強化する必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	S N Sにおけるイベント情報の投稿をはじめとした情報発信に加え、空手会館など近隣施設と連携を図り、引き続き、広報を強化する。